

帝塚山大学大学院心理科学研究科
博士論文審査報告書

氏名	森下 裕輔
学位の種類	博士 (心理学)
学位記番号	甲 第 25 号
学位授与年月日	平成 29 年 3 月 22 日
学位授与の要件	帝塚山大学学位規程第 5 条第 1 項
学位論文名	フォロワーが行うリーダー評価に関する研究: リーダー評価の規定因とフォロワーの集団適応に着目して

学位請求論文審査委員会

委員長 (主査) 谷口淳一 (帝塚山大学心理学部/大学院心理科学研究科教授)
委員 (副査) 蓮花一己 (帝塚山大学心理学部/大学院心理科学研究科教授)
委員 (副査) 相馬敏彦 (広島大学大学院社会科学研究科マネジメント専攻准教授)

1. 論文内容の要旨

請求者は本博士論文で、フォロワーが行うリーダー評価が集団適応をどのように高めるのかに注目し、そのリーダー評価がどのような認知過程でなされているのかについて検討を行った。本博士論文は 5 章より構成され、1 章では研究の理論的背景、2 章~4 章では 5 つの実証研究の説明、5 章では全体の総括がなされている。

実証研究では以下のことが明らかになった。

リーダー評価を「人格評価」と「能力評価」の 2 次元でとらえリーダー行動と集団業績がリーダー評価に与える影響について 2 つの研究から検討を行った。研究 1、研究 2 の結果、リーダーに対して温かさや親しみやすさを感じるほど、フォロワーは集団に対する関与を高め、集団に適応することが示された。つまり、フォロワーの集団適応を高めるためには、リーダーは人格を高く評価されることが重要であり、能力評価の重要性は低いことが明らかになった。

研究 3 では、リーダー評価が集団適応に与える影響について、未来展望の媒介効果を検討した。研究 3 の結果、リーダー評価がフォロワーの集団適応を導く過程には、肯定的な未来展望が媒介していることが明らかになった。また、その未来展望を予測するための判断基準はフォロワーの所属期間によって変化することも明らかになった。つまり、フォロワーの成熟度や、集団の中で生じる成長段階ごとに、フォロワーがリーダーに求

める要素が異なる可能性が示唆された。

研究 4、研究 5 では、フォロワーがリーダー行動の適切さを判断する基準となる、リーダー・プロトタイプ像に注目し、リーダー・プロトタイプ像を規定する要因について検討を行った。研究 4 では外集団の存在と集団サイズが、研究 5 では状況統制力がリーダー・プロトタイプ像の規定因となることが示された。これらから、集団構造の変化に伴い、フォロワーのリーダー・プロトタイプ像も異なるものとなることが示された。そのため、フォロワーから適切であると判断されるリーダー行動は、集団が置かれている状況によって違ったものとなる。しかし、最も基本的なリーダー・プロトタイプ像は普遍的なものであることも示され、その点においてはリーダー行動の適切さを判断する基準は、多くの状況下において比較的安定したものとなる可能性が示された。

以上の研究結果より、リーダーがフォロワーの集団適応に与える影響を明らかにするためには、単純にリーダー行動やリーダーシップの影響力に注目するだけでなく、フォロワーの認知的な視点を取り入れる必要があることが示唆された。

2. 論文審査結果の要旨

本博士論文は、フォロワーの視点からリーダー評価およびリーダーシップを捉えた意欲的な論文であり、博士論文に値する論文であると評価した。研究 1～研究 5 の個々の研究は、先行研究の十分なレビューをふまえた論理展開のもと仮説が導出されており、また仮説の検証にあたり分析方法も適切に選択されている。

組織におけるフォロワーの集団適応を考えるにあたって、その組織のリーダーがどのような人物であるかは大きな影響因となる。ただし、同じ人物であったとしても、フォロワーによって評価が分かれる場合もあり、フォロワーがそのリーダーをどのように評価するかが結局は集団適応にも直接的な影響力を持つと考えられる。本博士論文はこのようなフォロワーの視点に立ったリーダーシップの検討という観点から、リーダー評価が集団適応に与える影響について丹念に明らかにしようと検討されている。

リーダー評価を人格評価と能力評価によって捉えることで、リーダーが適切な行動を行っているという認知と実際の集団業績という 2 つの要因がそれぞれリーダー評価に異なる影響を与えることを明確に示すことに成功していることは評価に値する。さらにリーダーに対する人格評価がフォロワーの集団適応を高めるという影響過程について吟味し、未来展望が媒介すること、さらにその媒介効果がフォロワーの所属期間によって調整されることが示されたことは、フォロワーにとってのリーダーの位置づけが状況によって変化することを鮮やかに示しており興味深い結果である。

以上により、学位請求論文審査委員会は本論文が博士（心理学）の授与に値するものと認めた。